

2021年4月6日

たてくるジオパーク

だより 第39号



発行：立山黒部ジオパーク協会 事務局

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 タワー111ビル1階 ☎076-431-2089 📠076-482-3204

✉ info@tatekuro.jp

🌐 https://tatekuro.jp/

📘 https://facebook.com/tatekuro

第41回日本ジオパーク委員会 再認定審査結果報告書より

2021年2月5日に開催された第41回日本ジオパーク委員会において、立山黒部ジオパークは再認定となりました。委員会からの報告書の総評を部分を会員の皆さまに報告します。

一般社団法人立山黒部ジオパーク協会という民間団体が運営するジオパークとして、その強みを生かした運営が行われつつある。一方で、行政主導のジオパークでは比較的容易にできることがなかなかできないという面もある。

前回の条件付き再認定の指摘事項の多くが改善された。事務局体制が強化されると共に、地域の様々な活動主体と事務局の間とのコミュニケーションが良くなった。その結果、事務局のコーディネート機能が良くなり、様々な主体の協働に基づくプロジェクトが多数動いており、保全部会の活動、ジオカフェの開催「歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録」の発行などが実現している。

その一方で、指摘を受けて改善はしているものの、そのスピードが遅い事項もある。

学校教育への浸透とジオパークの可視性強化である。ジオパークと学校の連携が緊密な地域とほとんどない地域がある。ジオパークが連携している学校では質の高い理科教育、ふるさと教育、環境教育などが行われており、そうした学校のある自治体はジオパークから大きなメリットを得ている。この実践と成果を共有することでジオパークと学校との連携を広げるべきである。

公共施設や駅・空港などでの可視化とジオサイトにおけるジオパークらしい解説板の設置ないし既存解説板の改修はあまり進んでいない。ジオパークとジオサイトの可視化による各種自然・文化遺産の価値の普及は、それらの遺産を守るために重要であり、新たに立ち上がった保全部会を中心としてジオパークとそれぞれの遺産を管理する主体との間の連携を深めて可視化を実現してほしい。本ジオパークの場合、地域に多数ある民間団体の一つとして、教育の連携や説明板等の設置を自治体や関連機関に要請することになるために、自治体直営のジオパークよりそれが容易でない面があると思われる。

しかし、前述のように、本ジオパークは地域における自然・環境・教育などに関わる活動をする市民の連携を強める、大きな傘のような役割を徐々に果たしはじめているので、その存在感がさらに大きくなれば、学校との連携、公有地や公共施設でのジオパークの可視性強化に関して自治体などの協力をさらに得やすくなるであろう。弱点はありつつもすでに多くの成果を上げている本ジオパークの活動を、会員だけでなく広く市民に伝えて共感を得て、その価値が理解されることが今後の重要な課題である。そのことは今後の協会の持続的な運営にも重要である。

今回示された指摘事項について真摯に受け止め、ジオパークの地域社会への浸透と自然を生かした持続可能な地域社会の発展を目指して、企画、研究教育、広報啓発、ジオツーリズムや保全等各部会の基での今後の活動に生かしていきたいと思っております。

会員の皆さまのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



リレー講演会 「どうなる富山の雪・立山の雪」

3月7日に富山県立山カルデラ砂防博物館との共催でリレー講演会を開催しました。

今年1月、平野部で35年ぶりに大雪に見舞われたことは記憶に新しいですが、4人の方々を講師に迎え、近年の雪の現況と将来富山の雪はどうなっていくのかというテーマに沿ってzoomでの講演が行われました。

木地智美気象予報士は「今どうなの？富山の雪」、立山カルデラ砂防博物館の飯田肇学芸課長は「今どうなの？立山の雪」、富山県環境科学センターの初鹿宏壮副主幹研究員は「富山県の温暖化と雪の影響」、気象庁気象研究所の川瀬宏明主任研究官は「地球温暖化で日本の雪が変わる!?」について、たくさんの写真やグラフを交えて雪の状況を分かりやすくお話されました。

今年の富山の雪は朝鮮半島から南下した日本海寒気団収束帯の影響により平野部で128cmを記録し、1月のゲリラ的な大雪を発生させました。その後2度ほどの積雪がありましたが、徐々に雪の量は減りました。冬の平均気温は全体として上がっており今年は暖冬で多雪ということだそうです。一方、立山室堂では例年より降雪量は少ないとのこと。立山にも冬期であっても雪が降るだけでなく雨が降ったり雪が溶けたりしている様子が室堂の雪の壁の積雪状況から見受けられ山岳地帯も温暖化の影響が考えられるとのことでした。

また、このまま温暖化が進み近い将来平均気温が2度上がると、平野部では雪が降っても雪は溶けやすくなり、山岳部では積雪量は増えることになるそうです。

これら雪に関する最近の研究から、将来の日本の冬の天気イメージとしては1年間の降雪量も厳冬期の降雪も減少すると考えられ、冬季沿岸部は雨で、内陸部は大雪になると予想されるとのことでした。

富山でも温暖化が確実にすすんでいることや今年のような突然の大雪がこれからも起こる可能性があることが分かりました。次の冬をどのように迎えるのか、関心が高まる講演会でした。



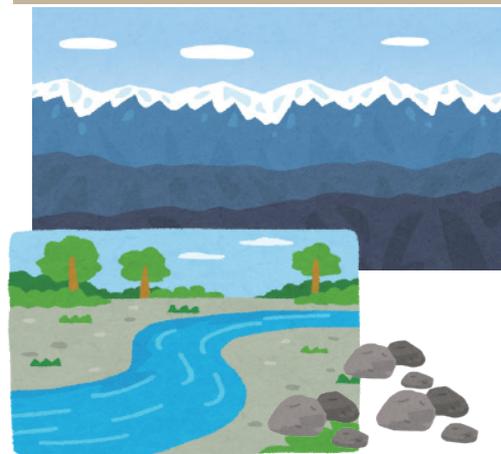
オンラインで参加者の質問に答える講師陣

富山県立高岡高校 探求科学科1年生 学習旅行ジオツアー

3月16日富山県立高岡高等学校探求科学科1年生20名の課外活動「科学探訪」に、黒部市吉田科学館の國香正稔先生と魚津埋没林博物館の佐藤真樹学芸員を講師として派遣し、たっぷりと富山県東部のジオパークを体験してもらいました。

黒部川の河岸段丘の観察を通じて地形（地球）の変化を五感で受けとめ生きている川と人との融合可能性を考えるというコンセプトで、午前は入善町金山の河岸段丘、舟見野の水田の傾斜や地形的特徴について、解説や観察・観測が行われました

午後は埋没林博物館の見学と石の分類作業の体験へ。なぜ埋没林がここで発見されたか、またその状況から昔この周辺にどのような光景が広がっていたかについて話を聞いた後、石を種類別に分類しました。特徴を捉えながら楽しそうに仕分けを進めている姿が印象的でした。実施後のアンケートでは、「自然の雄大さを感じた」や「見慣れた風景に遙か昔からのサインが示されていることが分かった」という感想が寄せられました。体験を通して、ジオパークで得られる大地の歴史とその意味を感じてもらえたと思います。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



立山カルデラ砂防博物館フィールドウォッチング 2021

博物館の学芸員の解説を聞く体験型フィールドツアーです。年間8回のジオツアーが計画されています。第1回目は「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体験してそこに秘められた情報を探ります。

春の立山・雪の大谷ツアー

- ◎日 時：2021年5月8日（日）10:00～17:00
- ◎行き先：雪の大谷・室堂平・ミクリガ池周辺
- ◎対 象：一般（小学生3年生以上、保護者同伴）
- ◎定 員：15名（先着順）
- ◎集合場所：富山駅・立山カルデラ砂防博物館
- ◎申し込み：一般社団法人 地域・観光マネジメント

「北陸探訪」のホームページで、実施日の1か月前より申し込みができます。

*参加費用、持ち物等、詳細については、ホームページよりご確認ください。

<https://hokuriku-tour.com/archives/tour/tg001>



魚津埋没林博物館 企画展「魚津の化石展」・特別講演会



魚津埋没林博物館では、企画展「山にサメ！海からスギ！魚津の化石展」が開かれています。

魚津の山の中で見つかった貝の化石など、たくさんの化石が展示されています。化石とは何か？どうやって化石ができるのか？など、分かりやすく解説してあります。

この企画展に合わせて3月27日に特別講演会が開催されました。福井県立恐竜博物館の寺田和雄主任研究員が「珪化木・木が石に



なる不思議なお話」として化石には石になっている化石と、石になっていない化石の2つがあること、木が石化して珪化木になるには腐る前に土石流や火山灰に埋まるという条件があること、埋没林は化石になっていない木の化石（未石化木）であることを話されました。また富山大学都市デザイン学部 佐野晋一教授が「化石から探る地球と生命の歴史」として八尾層群を中心に化石が見つかることでその生存環境や、日本や富山の地理的地質的な歴史が分かること等、興味深い話を聴くことができました。

この企画展は、6月27日まで開催中です。山から見つかったいろいろな化石をぜひ見に来てください。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



岩瀬浜 ～多様な生き物に出会える浜～

富山湾に面した岩瀬浜は神通川河口の右岸に広がり、立山黒部ジオパークのエリア内では最大の砂浜です。砂浜には、ハマニガナ、ハマゴウなどからなる海浜植生が発達しており、夏から秋にかけて可愛らしい花を咲かせます。

また、3月から4月の夜には、運が良ければホタルイカの身投げがみられることでも有名です。日中は深海に生息しているホタルイカですが、富山湾では、春の夜になると産卵のためにメスが海面付近にやってきます。

その際、方向感覚を失ったホタルイカが浜に打ち上げられるこの現象を富山では「身投げ」と呼んでいます。また、タコの仲間のアオイガイの抜け殻が打ち上げられることもあるということです。

この他にも岩瀬浜では、季節ごとに様々な生き物に出会うことができます。

天気の良い日には、立山連峰も堂々とした美しい姿を見せてくれます。皆さんも岩瀬浜に出かけてみてはいかがでしょうか。



岩瀬浜

■ 協会会員企業の紹介

立山黒部ジオパーク協会の会員企業を、五十音順（昇順、降順）でご紹介していきます。

黒部川に大高あり

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土木工事 建築工事 海外事業
砂防・護岸・法面

大高建設株式会社
Human & Quality

本社 富山県黒部市宇奈月温泉633-1
TEL 0765-62-1106 FAX 0765-62-1631
URL <http://o-taka.co.jp>

会員を募集しています！

立山黒部ジオパーク協会では、富山県東部地域の魅力を世界へ発信するために、民間活力を活かしたジオパーク活動を行っています。私たちの活動を支援して下さる方、手助けをして下さる方をお待ちしております。



※ 興味のある方は、立山黒部ジオパークのホームページをご覧ください。立山黒部ジオパーク協会（076-431-2089）までお問い合わせください。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

